

**「子ども農山漁村交流プロジェクト」セミナー
～コロナ禍における子ども農村漁村交流の取組のあり方～基調講演資料**

**演題:「長期化が予想されるコロナ禍の中での新たな安全・安心な子供農村漁村交流
の受入整備について」**

1、子ども農山漁村体験推進の意義

- (1) 農山漁村体験を通じて、地方の自然、歴史、文化等の魅力について学び、理解を深めることで、生命と自然を尊重する精神や環境保全に寄与する態度を学ぶ。
- (2) 人と人とのつながりの大切さを認識し、農林漁業の意義を理解することにより、子供の生きる力を育むことができる。
- (3) このような体験を通じて、特に地方を知らない都市部の児童生徒が、小中高の各段階において、将来の地方への U・I ターンの基礎を形成することが期待できる。
- (4) 一定期間農山漁村に滞在し、体験活動を行うことが望ましく、地方の児童生徒も、都市部の児童生徒との交流により、足元の地方の魅力を再発見することとなる。
- (5) こうした体験活動の推進は、地方と農山漁村の相互理解の増進に寄与するとともに、受入地にとっての地方創生にも資することとなる。

2、国連の「SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の基礎になる。

3、コロナ禍における子ども農村漁村交流の取組のあり方

- (1) 旅行者のニーズの変化＝コロナの影響で旅人の意識が大きく変化・・・!?今までは、その土地の食や景色・交流メニューが主たる意思決定のポイントだった。
- (2) コロナ禍で旅人は非日常よりも観光リスクが低い『安心・安全』な市町村（地域）や宿泊施設を重視して選ぶように変化。
- (3) コロナとの戦いは長期化すると想定されている。
- (4) 新たな生活様式から様々なライフスタイルが生まれ、今までのタブーがスタンダードに＝（例）在宅勤務・オンライン授業・ワーケーション、地方への2地域居住・休日の分散化・時差出勤、ハンコ文化の終焉
- (5) コロナ禍における子ども農村漁村交流の取組のあり方も、知恵の出し方次第で新たな交流企画が可能になる！！

4. 観光を取り巻く環境の変化(農村漁村交流への期待)

- (1) 従来型観光*「団体」、「宴会」、「通過」
- (2) 旅の成熟が進み周遊型の旅のスタイルはインバンド・アウトバンドとも「生活文化観光」へだから今こそ地域観光の出番
- (3) キーワードは
「個人」、「体験」、「滞在」、「交流」「テーマ性」「地域性」「地域の魅力」「着地型商品」
「体験、参加・交流、ふれあい」

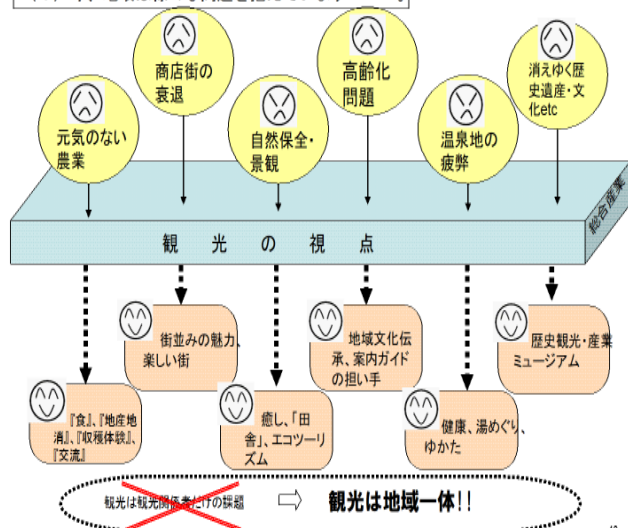
5. 地域に期待される価値の創造(訪問者の期待に答える！)

- (1) 「今だけ！」＝「この季節！今だけの旬に」、
- (2) 「ここだけ！」＝「ここの土地だけで獲れた物を」
- (3) 「あなただけ！」＝「私にだけ特別に提供してくれる」

地域の独自性に徹底的にこだわる事をベースに新たなアイデア次第で、目の肥えたわがままな消費者(旅人)を満足させる事ができるスーパーや量販店との違いを明確にして、「伝える」「学ぶ」をキーワードに地域・市民が連携して新たな価値を作り上げて行くことが大切！！

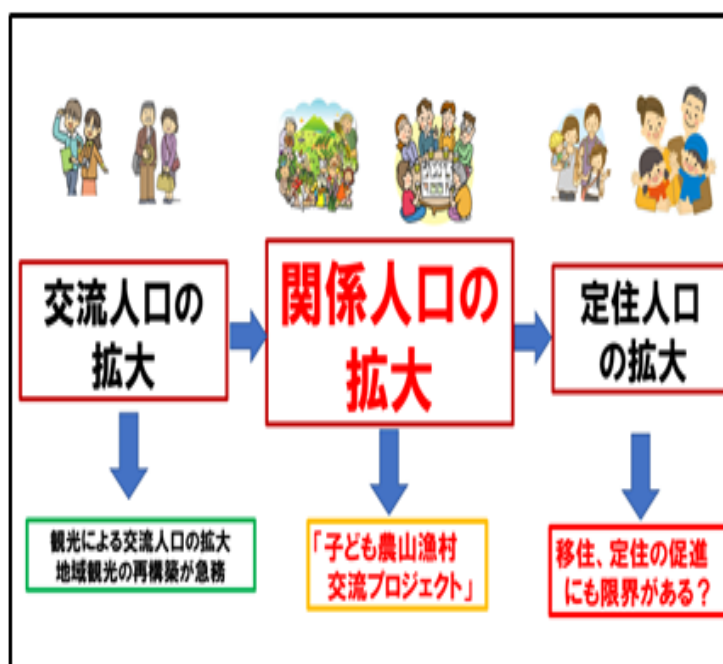
地域の魅力を地域挙げて創り出す！！

(1) 今、地域は様々な問題を抱えています・・・。



40

-9-



地域観光コンセプトづくり5つのポイント

(1) 資源発掘の視点

地域資源を活かす上で、どのような点に着目するか？

(2) 顧客価値の視点

その資源を活かす上での「顧客価値」は何であるのか？

(3) 資源の編集の視点

顧客価値創出のための資源の編集・加工の視点は何か？

(4) 事業モデル化の視点

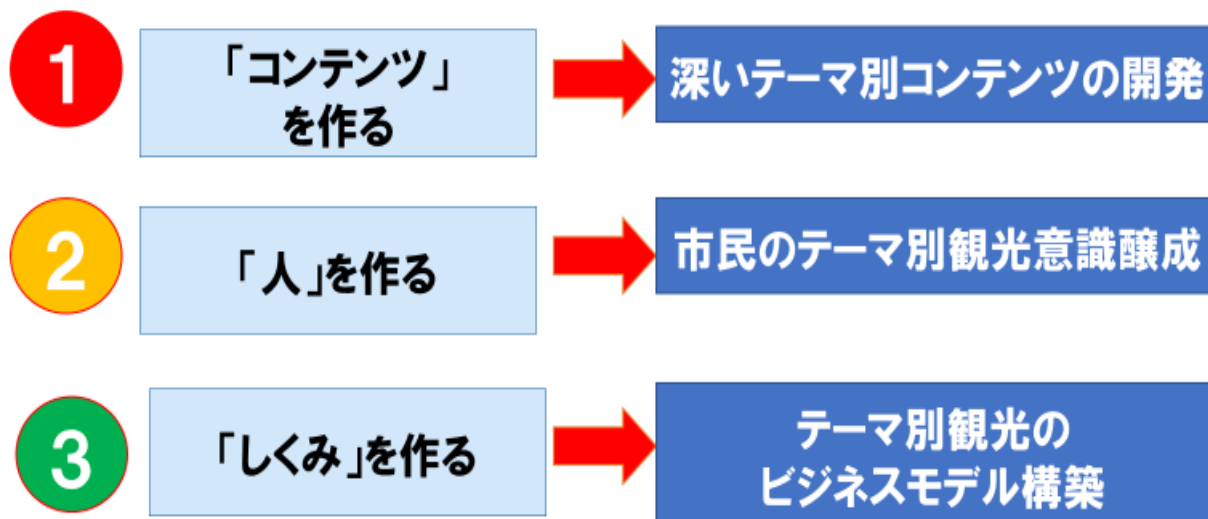
継続的な事業として発展させるための事業(ビジネス)モデルとして、どのような工夫をするのか？

(5) 人材育成の視点

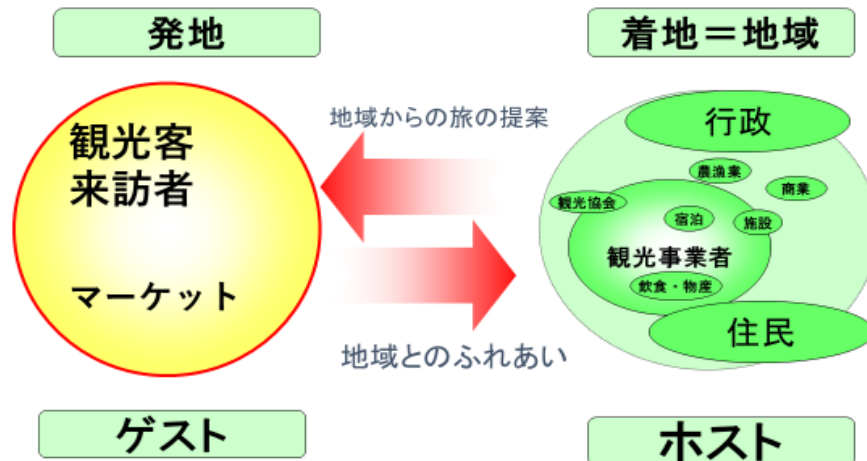
事業を発展させるために、必要となる人材とその育成について、どのような工夫が考えられるのか？

67

今後の観光連携の今後の展開手順



全ての地域資源を再編集ベースにした
「観光」の魅力を生み出すこと！



「子供の農山漁村体験（通称「子ども農山漁村交流プロジェクト」）の充実について（通知）」（平成30年12月25日関係省庁通知）

第1 子供の農山漁村体験の充実の意義

農山漁村体験を通じて、地方の自然、歴史、文化等の魅力について学び、理解を深めることで、生命と自然を尊重する精神や環境保全に寄与する態度を養い、人と人とのつながりの大切さを認識し、農林漁業の意義を理解することにより、子供の生きる力を育むことができる。また、このような体験を通じて、特に地方を知らない都市部の児童生徒が、小中高の各段階において、将来の地方へのUIターン（U：上り、I：下り、ターン）の基礎を形成することが期待できるため、一定期間農山漁村に滞在し、体験活動を行うことが望ましい。

また、地方の児童生徒も、都市部の児童生徒との交流により、足元の地方の魅力を再発見することとなる。さらに、こうした体験活動の推進は、地方と農山漁村の相互理解の増進に寄与するとともに、受入地にとっての地方創生にも資することとなる。

以上より、子供の農山漁村体験の取組を一層体系的に推進することとし、これに必要な施策を関係省庁で連携して実施する。

